

各水試発トピックス

第1回北海道豊かな海づくり大会に参加しました

令和7年6月1日(日)に、小樽市において「第1回北海道豊かな海づくり大会」が開催されました。主催者として鈴木知事が出席し、式典、放流行事および企画展示・販売が催されました。北海道庁によると延べ1万2千人が会場に訪れたとのこと。

「北海道豊かな海づくり大会」は、令和5年9月に天皇・皇后両陛下をお迎えして、厚岸町にて開催された「第42回全国豊かな海づくり大会北海道大会」を契機に、大会の理念をふまえ、北海道の豊かな海を守り育て、次世代に引き継ぐために、地域版の豊かな海づくり大会として企画されました。その記念すべき第1回目の大会が今年(令和7年)、小樽の地で開催されました。

道総研からは小高理事長、星野本部長が来賓として参加し、放流行事では約3,000尾のニシン稚魚が放流され、小高理事長も自ら放流用バケツからニシン稚魚を放流しました。

水産研究本部と中央水産試験場は、企画展示に参加しました。展示ブースでは、「栽培漁業について」、「ニシン漁の歴史」(よいち水産博物館監修)、「積極的にニシンを増やす人工種苗放流」、「資源を

持続的に上手に利用するための資源管理」について紹介した4枚のパネルを展示しました。また放流したものと同一ニシンの稚魚を水槽にて展示しました(写真1)。企画展示として、ヒトデやナマコなどの海の生物と身近にふれあってもらうために2個のタッチプールを設置しました(写真2)。展示パネルに見入る方や展示水槽内を元気に泳ぐニシンに興味津々の子供たちの姿がみられました。特に人気だったのはタッチプールです。タッチプールの周りには、子供連れのご家族がほぼ途切れることなく訪れていました。これらの展示を通して、北海道の豊かな海を守り育てる大切さや、かつて北海道の経済を支えたニシンの今昔について、一般の方々にご理解頂けたと思います。

各地の水試では、夏から秋にかけて試験場内や試験調査船の一般公開を行っております。これらを通じて水試の業務について、一般の方々へ積極的に普及しておりますので、機会があれば是非ご参加願います。

(三原行雄 水産研究本部企画調整部)



写真1 元気に泳ぐニシン稚魚に興味津々(展示水槽)



写真2 海の生き物とのふれあい(タッチプール)

各水試発トピックス

令和7年度水産研究本部成果発表会を開催しました

令和7年7月3日（木）に、水産研究本部主催で、かでの2. 7（札幌市）において「令和7年度水産研究本部成果発表会」を開催しました。今年はいこれまでの1日開催から内容をぎゅっと凝縮して、午後からの半日開催とするとともに、前半が口頭発表、後半がポスター発表の2部構成としました。今年度の参加人数は総計351名で、内訳は会場参加が198名、WEB参加（事前申込者数）が153名でした。

前半の口頭発表は、本会場（かでのホール）で開催しました。冒頭に星野本部長が「本道の水産試験研究の今」と題して、本道の水産業を取り巻く状況や水産試験場が実施している試験研究の概要について説明しました。続く口頭発表では、「本道の養殖業を支える研究開発」をテーマとし、海藻（1題）、ウニ（1題）、ホタテガイ（1題）およびサーモン（4題）の各分野の最新の研究成果について報告しました（写真1）。

後半のポスター発表はポスター会場（展示ホール）に場所を移して、次の12題について、担当の

研究者と参加者が対面にて、質疑と意見交換を行いました（写真2）。

- ①促成養殖で天然ものに匹敵するガゴメを作る
- ②秋から冬に行うキタムラサキウニ養殖技術開発
- ③日本海のホタテ生産安定化に向けて
- ④道産養殖サーモンプロジェクト
- ⑤環境にやさしい養殖の仕組み作り
- ⑥津軽海峡を通過する流量の再評価
- ⑦ホッケ0歳魚の誕生日と成長を調べる
- ⑧増加した道産フグの正体
- ⑨サケは川でどれぐらい産卵できるのか？
- ⑩エネルギー価で評価するサケ稚魚の餌環境
- ⑪サケひれを活かして美味しくサステナブル
- ⑫魚肉熟成の科学に迫る！

成果発表会を通して、水産試験場の研究成果を広く・わかりやすく周知することにより、水産試験場への理解がより一層深まること、さらには水産業の発展に役立つことを期待したいと思います。

（三原行雄 水産研究本部企画調整部）

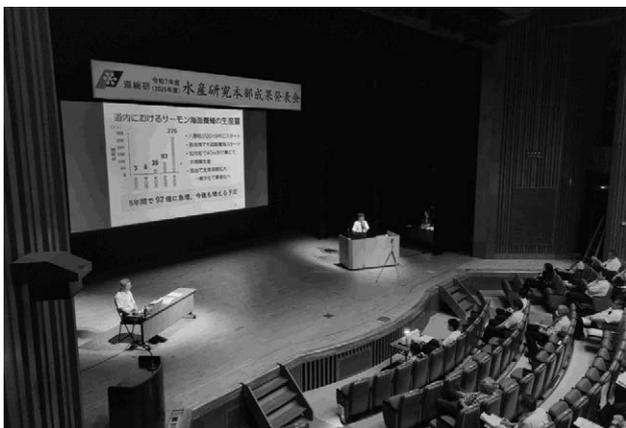


写真1 本会場における口頭発表（かでのホール）

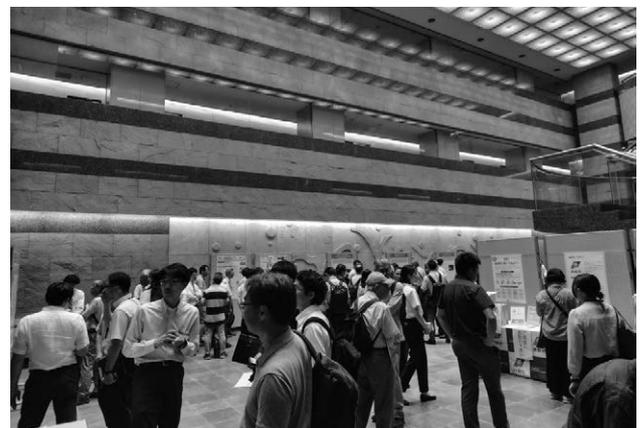


写真2 発表者からポスター発表（展示ホール）